

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570706606		
法人名	医療法人 仁恵会		
事業所名	グループホーム 夕陽の丘 柳田		
所在地	秋田県湯沢市柳田字中嶋227-1		
自己評価作成日	平成28年8月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成28年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の『自立と相生』のもとに、一人ひとりの生活歴や個性を大切にしながら、その方に合わせた支援ができるように努めております。価値ある人生を送って頂きとの思いから、日常的に外出支援や今までの生活習慣の継続の他、新しい経験もできるように取り組んでおります。利用者様を支援する上で、職員の経験や知識が必要とされますが、研修や勉強会を開催しながら知識向上を図り、専門的な支援が出来るように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員間にはフレンドリーな雰囲気を感じられ、さまざまな提案が出されてホームの運営に反映されています。共に生活する中で利用者の生活史を理解して意欲を生み出せるよう能力に応じた活躍の場をつくり、理念に基づいたケアの実践に取り組みられています。また、ホームでできる地域貢献のあり方を検討されており、認知症カフェの開催を計画して地域との関わりを更に深め、大切にしていこうと努力されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を全職員が理解しそれに基づいてサービスを提供出来るように努めております。地域密着としてのグループホームの役割についても職員と共有し実践に向け取り組んでおります。	「自立と相生」を生活理念として掲げ、職員が利用者を理解して実践に繋げている様子が見てとれます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のクリーンアップや地域の行事への参加を行い交流できるように努めております。周辺に民家が少なく地域との円滑な交流は難しい状況ですが、ホームをより理解して頂くため、認知症カフェの開催を計画しております。	地域との繋がりを深める努力を継続されており、認知症カフェ開催の企画をする等、新しいことにも挑戦して地域の一員としての活動をされています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議に、地区会長様、老人クラブ会長様、民生員様に出席して頂いており、地域での相談を受けることがあります。また、地域の方の協力を頂きながら、認知症についての講座を開催したいと計画しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の生活状況やホームでの取り組み内容等を説明しております。地域とのつながりを課題にしており意見や協力を頂きながら取り組んでおります。	地域の代表が多数参加されていることから、地域との繋がりを深めていこうと運営推進会議を活かした取り組みが行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ネットワーク会議(市内のグループホーム管理者と市の職員が参加)にて、事業所の報告や相談を行い連携を図っております。市からも福祉に関する情報提供を頂いております。	ネットワーク会議を通じて協力関係ができており、取り組みの報告や相談が行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部・外部研修を通じて身体拘束について理解しております。また、日常のサービスや言葉掛けが身体拘束にあたらないかカンファレンス等で確認注意を払っております。	研修で理解を深めている他、カンファレンス等で職員の気付きを話し合い、身体拘束をしないケアに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に、虐待防止に関しても上記取り組みを行っております。また、職員がストレスを抱え込まないように悩みを話せる職場環境に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて制度に関して理解はしておりますが、利用されている方はおられず、今後必要とされる方がいらっしゃれば活用出来るように支援していきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書及び口頭での説明を行い、理解して頂けるように努めております。契約・解約の際は、ご家族様が納得されたうえで手続きを行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話・お手紙等で定期的な状況報告を行っており、その際、ご家族様の意見を伺い、可能な限りサービスに反映しております。また、第三者機関についての説明も契約時に行っております。	面会時等に現状を報告しながら話を聞き、要望が反映できるように取り組まれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一人一人が職員としての自覚や責任をもって業務にあたるように、意見や提案を取り入れております。毎月の会議でも、全職員が意見を出し合いサービスの向上に繋がるように努めております。	職員の意見を聞く体制ができており、経験の長い職員も多く、利用者の行動を考慮して手すりを増設する等、出された意見が検討されて反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課により、努力や実績、勤怠を把握し、昇給、賞与支給を行っているほか、面談により、この職場でやりたいことを引き出し、実現できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課や面談により職員個々の力量を把握し、適したレベルの内外研修へ参加できるよう研修機会を確保しているほか、資格取得等奨励支援金制度により、意欲向上と負担軽減を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国団体の県支部役員として、日頃から他の事業所との関わりがあり、研修等で管理者や職員が同業者と交流できるよう取り組んでいる。また2ヶ月後との管理者の交流の場で情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他事業所からの情報提供も頂きながら、抱えている問題や不安なことを把握・理解した上でサービスを提供しております。また、職員間で情報を共有することでその方への理解を深め安心に繋がる関係づくりに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が抱えている問題や要望を把握・理解し、入居後は報告を密に行うことで安心して頂けるように努めております。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の“年の功”を活かしながら、お互いに支え合える関係づくりを目指しております。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームのシンボルマークは利用者様・ご家族様・職員が手を取り合う構図になっており、共に支え合える関係を理想としております。また、利用者様とご家族様が良好な関係でいられるように配慮しております。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の様子を心配される方も数名おられます。ご家族様の協力を頂きながら、自宅や地元へ行けるように支援しております。	入居前に行っていたことが継続できるよう生活の中に取り入れています。家族と可能な限り関わりを持っていただき、帰宅や受診、毎月の報告書に利用者の手紙を同封する等、関係が途切れないよう支援されています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「自立と相生」の理念のもと、お互いに支え合い、関わり合える関係が築けるように、座席であったり、レクリエーション時など配慮しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後は、その後の状況確認を行い必要に応じて他事業所と連携を図り支援を行っております。ホームに来て下さるご家族様もいっしょり関係を大切にしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の見直の際は利用者様へサービスについてお話を伺っております。日常生活で利用者様が話された思いや希望は、記録に残し職員間で共有しながらサービスに反映させております。	夜勤や入浴時等、利用者が思いを話しやすい時を利用したり、日常の様子から意向の把握に努めています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用しこれまでの暮らしの把握に努めております。ホームでの生活に反映させ、一人ひとりに合った暮らしを提供出来るように支援しております。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のカンファレンスで一人ひとりのサービスの評価や状況確認を行いながら、現状に合ったサービスを提供しております。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様とは、利用者様の意見や現状を報告し、今後のケアについての話し合いを行っております。その後、カンファレンスにて全職員で介護計画を確認しながら作成しております。	本人、家族の希望を踏まえ、カンファレンスでのモニタリングを経て必要な支援が行えるように意見を出し合って介護計画が作成されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をモニタリングに活かせるように、気づきや様子を誰がみても分かるように記録するように努めております。また、職員間で情報が共有できるように申し送りを密に行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活用できる地域資源を見つけたり、利用可能な地域資源を活用しながら、利用者様の生活圏が広がり、より豊かな暮らしを提供できるように努めております。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、利用者様、ご家族様と相談し決めており、長年のかかりつけ医があれば継続し受診しております。年1回、歯科医が訪問し健診を行って頂いております。	本人、家族の希望する医療機関で受診されており、状況に応じて適切に支援されています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携にて、併設する関連施設の看護師の訪問が定期的であり、報告や相談を行っております。急変時には駆けつけ対応を行っております。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、情報交換を行い利用者様が安心出来る環境を整えられるように努めております。入院中も状況を伺い早期退院に向け話し合い行っております。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りに対する指針を説明しており、状況の変化時にも今後についての話し合いを行っております。地域の医療の状況も厳しく、看取りに向けた協力を頂けない状況もあり、検討が必要です。	終末期に対応できるよう支援体制を見直しされています。緊急時に対応していただけるかかりつけ医を持つ利用者もあり、家族の理解と協力を得ながら状況変化に応じた支援ができるよう取り組まれています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習の受講や研修にて、急変時や事故発生時の対応を確認しており、素早く冷静に対応出来るように備えております。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主訓練を毎月行っており、災害時に混乱なく避難できるように備えております。また、運営推進会議にて、災害時に地域からの協力を得られるように理解頂いております。	入念な訓練を実施して検討が行われ、避難出口を新たに造成されています。隣接する施設と共に地域の避難場所となっており、水害時の対応マニュアルも作成されています。	二次避難場所を確保すると共に、人手の少ない時間帯の災害に備えて、地域と協力した効果的な訓練となることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な対応がないように注意を払っております。一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を行い、職員間で情報を共有し統一したケアを提供できるように努めております。	生活史を知り、その人を理解することで対応の仕方や言葉かけに配慮されています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いや希望を表せるように、関係づくりに努めており、自己決定が出来るようにゆっくりとお話しを伺う等し環境づくりを行っております。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	“ゆっくりのんびりと、を基本方針としており、利用者様のペースで過ごせる様に臨機応変な対応を心がけております。その日の過ごし方は、こちら側から伺いを立て利用者様の意向を聞き支援しております。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の汚れの確認、整髪の言葉かけや介助を行い身だしなみを整えております。衣類は利用者様と買い物に出掛けたり、誕生日にプレゼントし喜んで頂いております。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物から、調理、盛り付け、片付けの過程で利用者様と一緒にしております。出来ること、難しいことを見極めその方の状態に合わせて携われるように支援しております。	日々の献立や行事の際に季節感を取り入れて工夫した食事が提供されています。野菜の収穫や山菜の下処理等に利用者の力が発揮され、外食も取り入れて楽しく食事ができるよう支援されています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士に確認して頂き、意見を頂いております。一人ひとりの嗜好調査しそれに合わせた食事を提供しており、食事摂取量、水分量は都度確認し対応しております。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っております。年に1回は歯科医の健診により、口腔状態を確認して頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合わせた排泄用品の使用や介助を行っています。	状況に応じた排泄用品を使用して個々の習慣を活かした対応を行い、オムツをしなくても済むように支援されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方へは、水分量を多くしたり、乳製品を提供する等の工夫や、その方の状態に合わせた適度な運動を支援しております。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方の希望に応じて入浴回数を多くしたり、一人ひとりの好むお湯の温度を設定しております。個別にゆっくりと入浴できるように配慮しております。	拒否される方もなく、週2～3回の入浴の中で一人ひとりの希望に応じて支援されています。利用者の思いを聞くことのできる大切な時間ともなっています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、その方の状況に応じて活動量を多くし、夜間安眠出来るように支援しております。一人ひとりの習慣に合わせて就寝されております。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局から、薬についての説明や相談に応じてもらっており、職員間で情報を共有しております。服薬後の症状の変化時には、医療機関へ報告しております。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的に外出レクや個別外出を行っており、外食も楽しんで頂いております。また、個々に合わせたレクリエーションや園芸活動、食事作り等の仕事出来るように支援しております。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等の外出支援を日常的に行っております。また、本人の希望に応じて個別での外出を行ったり、ご家族様の協力を頂き自宅への外出も支援しております。	季節の花やドライブ、外食等、戸外に出かける機会をつくり、家族の協力も得ながら支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ちのお金が無いことへの不安を十分に考慮し、お金を自分で所持されている方もおられます。また、職員でお預かりしていることを説明し安心して頂ける様ように努めております。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様が遠方にいらっしゃる方もおり、電話や手紙の支援を行い、ご家族様との交流を図っております。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内では、季節の装飾を行うことで、季節感を持ってもらえるように心がけおり、換気やこまめに室内の温度を確認しながら快適に過ごして頂けるように努めおります。夏場は、日差しが強いため、オーニングを使用する等の工夫をしております。	食堂は明るく、広くスペースをとって利用者が活動しやすくなっています。トイレは居室の配置に合わせて利用しやすい場所に設置されており、全体的に清潔感のある共用空間となっています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の広さの問題もあるが、ソファの設置等の工夫をし、利用者様同士が交流できる場を作っております。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具を持って来て頂いたり、利用者様と相談しながら、装飾の工夫やお花を飾る等し居心地が良い空間を心がけております。	利用者が安全に、且つ安心して生活できるよう職員がその都度意見を出し合い、一人ひとりに合わせた環境づくりをされています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせ、居室に手摺りを設置したり、ホーム内での事故を予測した研修を行い、事故防止に向けた対応を行っております。		